

2026年度(令和8年度)学校評価自己評価表

培遠中学校区	校番 59	福山市立日吉台小学校
最終更新日	2026年(令和8年)4月17日	

I 福山市

めざす姿	すべての子どもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

<p>前年度学校運営協議会(学校関係者評価)の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校として大変な状況も多々あると思うが、学力向上や不登校の減少等、子どもたちのためにがんばってほしい。 コミュニティ・スクールが始まるが、現状の地域との関係を維持しながら進めてほしい。また、地域とのつながりを大切にする子ども達の成長が楽しみである。引き続き、地域との連携・協力をよろしく願いたい。 	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校では学ぶ意欲はあるものの、全国学力学習状況調査における教科学力は若干下回っている。 中学校では、生徒会活動を中心に、学校の課題の改善に努める取組が充実してきた。 中学校における長期欠席の生徒は全体の6.0%である。(R5 全国平均 8.5%) 	<p>育成する資質・能力</p> <p>めざす子ども像(義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>課題発見力、論理的思考力、コミュニケーション力、粘り強さ</p> <p>自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる</p> <ul style="list-style-type: none"> 次のステージへ進むための確かな学力の定着 発信・表現の充実を踏まえた生活科・総合的な学習の時間の単元づくり 相手・目的意識をもたせた特別活動の充実
---	---	--	--

III 自校

<p>学校教育目標</p> <p>自ら気づき、考え、判断して行動するこどもの育成</p>
--

<p>現状</p> <p><児童></p> <ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査及び標準学力調査等において、市平均や学年の平均を下回っている学年が多い。特に、算数科の思考力においてはどの学年においても大きな課題がある。昨年度から、漢字・計算検定を充実させながら、算数科を中心とした授業改善を行っている。基礎的な学力の定着を図りながらも、児童が学ぶことを楽しいと感じる授業づくり、思考力・表現力の向上を目指した授業づくりを行っている。 児童の意識調査結果から、「目標や努力することを決めて取り組んでいる。」の項目の肯定的評価の向上が見られた。学習や行事などで目標を決め、振り返りを実施することが自己肯定感の向上にもつながっていると考えられる。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート「授業で考えることは楽しい。」93.6%、「授業が分かる。」92.1%であった。肯定的評価は高いものの、児童の意欲が学力の定着に結び付いていない現状があると考えられる。 学年末確認テスト(思考・表現)の達成率、国語 89.8%、算数 83.1%

育成する力 資質・能力	課題発見力	論理的思考力	コミュニケーション能力	粘り強さ	
めざす 子ども像	低学年	「不思議だな」「何故かな」を見つけることができる。	事柄や時間の順序を整理しながら考えることができる。	自分の思いや考えを相手に伝えることができる。	自分がやるべきことを、あきらめないでやり抜くことができる。
	中学年	既習内容や知識をもとに、自ら問いを見つけていることができる。	因果関係を整理し、筋道を立てながら考えることができる。	自分の考えと相手の考えを比べながら伝え合うことができる。	目標を持って最後までやり抜くことができる。
	高学年	既習内容や身の回りから探究したい課題を見つけ、解決の見通しを持つことができる。	因果関係を整理し、筋道を立てたり、根拠を明確にしたりしながら考えることができる。	多様な考えを受け入れながら、自分の考えを伝えることができる。	自分の役割を自覚し、役に立つ喜びを感じながらやり抜くことができる。
研究	テーマ	「できる」「わかる」「楽しい」を実感できる算数科の授業づくり ～導入・問題の工夫、対話の充実を通して～			
	内容等	当該学年の基礎的・基本的な学力の確実な定着を図る。 児童が「なぜ?」と考えたくなるように問題・導入場面を工夫する。			
めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> 子どもにつける力を明確にし、学力を確実に定着させる授業 子どもが「できた」「わかった」「楽しい」「また、やってみたい」と実感できる授業 子どもが対話を通して、学びを深めていく授業 				

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価
1	基礎学力の定着・向上と学び続ける力の育成	★	継続	・読む力、書く力、表現する力の定着を図る。	・算数科において、児童が意欲的に学習に取り組んだり、図や言葉を用いて表現したりする授業づくりをする。 ・重点単元を設定し、研究授業を計画的に実施する。	・学期末確認テスト(知識・技能) 国語・算数80点以上 ・「もっと知りたい、学びたい」90%以上 ・算数科を中心に教材研究を行い、研究授業を全員1回以上実施する。								
5	自らに自信を持ち、相手を思いやる心の育成		新規	・多様な学びの場を充実させ、自分の役割を自覚しながら、安心して活動に取り組む力を育む。	・自主的継続的な係、委員会活動を促進したり、異学年交流の場を設けたりする。 ・児童会を中心に、思いやりや言葉遣いに関する取組を行う。	・「学級・委員会で役割を果たしている」90%以上 ・「相手を意識し、丁寧な言葉遣いをしている」90%以上								
2	自らの生活を律するたくましい心と体の育成	★	継続	・体を動かすことの楽しさに気付くとともに、自らの生活習慣をよりよく改善していく態度を育む。	・児童の実態を把握し、体育の授業改善を図る。 ・ロングロング昼休憩や朝活ウィーク及び主体的に参加できるレクやイベントを継続する。 ・「生活習慣7つの目標」をもとに生活習慣をよりよくしていく取組を行う。	・「運動やスポーツ、外遊び等で体を動かすことが好き」90%以上 ・「起きる時刻・寝る時刻を決めて守っている」80%以上。 ・「メディアの使用の時間を決めて守っている」80%以上。								
1	教職員が生き生きと働ける環境づくり	★	新規	・教育公務員としての自覚と責任をもち、自己研鑽に励む。	・教職員の経験や役割に応じた研修を推進し、教職員の授業力と専門性の向上を図る。 ・学校における働き方改革を推進する。	・研修で学んだことを校内で還元する。 ・時間外在校時間月45時間以内、年360時間以内の職員100% ・『『こどもが自ら学ぶ』授業づくりに充てる時間がある』職員90%								
2	保護者から信頼される学校づくり		継続	・保護者からの満足度の高い学校経営を行う。	・児童が「学校が楽しい。」と感じる学びづくりを行う。	・保護者アンケート「こどもは学校が楽しいと言っている。」92%以上								

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。